

## (新規)農商工連携推進事業について

農林水産部農業水産課  
(農林水産部農業水産政策課)

### 1 目的

第一次産業である農林水産業振興のためには、第二次産業、第三次産業との連携の強化や新産業創出(第六次産業化)が重要となってきた。こうした状況の中で平成21年度に実施した植物工場可能性調査事業における農業水産業に係る新技術の調査研究と実証試験等の成果を活用し、農商工連携を軸とした「アグリビジネスモデル」の積極的な創出と地域ブランド化に取り組んでいく。

### 2 事業内容

#### (1)アグリビジネスセミナーの開催

農業者を主たる啓発対象に、農業水産ブランド化戦略や農商工連携モデルに関する報告会、ビジネスマッチング相談会などを行う「アグリビジネスセミナー」を開催する。

#### (2)農商工連携先進事例の調査研究

平成21年度予算による「植物工場可能性調査事業」において全国的な調査研究結果を基に、本市において導入可能性が高い新技術について、現地での詳細な調査を実施し、新たな「ビジネスマッチング」の機会創出を図っていく。

#### (3)農林業技術異業種交流事業(継続)

豊富な工業技術を農林業の生産現場へ活用することにより省力化及び高品質な農林産物の産出に資するための技術開発につなげるための研究会を開催する。

### 3 事業費 1,000千円

# (新規) 元気な農林水産業活動助成事業について

農林水産部農業水産課  
(農林水産部農業水産政策課)

森林課

## 1 目的

農林水産業に関する団体の活動は、新たな担い手の創出、特産物のブランド化など農林水産業の振興を図る上で重要な役割を担っている。このような活動を行う団体に対して助成を行ってきたが、対象団体の固定化・長期化が進み、団体運営自立の阻害要因となっている。

このようなことから、団体運営費補助的側面をもつ補助金を見直し、新たに団体・グループの行う農林水産業振興にかかる活動を公募し助成する制度として再構築し、市内の第一次産業の振興を図るとともに新たな取組みも含めた事業展開を推進する。

## 2 事業概要

### (1) 概要

農林水産業振興に寄与する活動・事業を公募し、助成する。

### (2) 補助対象者

農林水産業振興に取り組む3人以上で組織する団体

### (3) 対象事業

- ・ 地域の特産物の振興に寄与する事業
- ・ 販売促進にむけた商品ブランド化に繋がる事業
- ・ 耕作放棄地解消に繋がる事業
- ・ 森林整備及び木材利用の啓発促進に繋がる事業
- ・ その他農林水産業振興に繋がる事業

### (4) 補助率 2分の1

## 3 事業費 3,050千円

## (新規) 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金について

農林水産部農業水産課  
(農林水産部農業振興課)

### 1 目的

現在、本市全域に 1,177ha (うち農業振興地域内に 902ha : 平成 18 年農業資源調査) の耕作放棄地が広がっている。このような状況のなか、耕作放棄地の再生・利用を図る取組主体を支援することにより、耕作放棄地の解消を図っていくものとする。

### 2 事業概要

#### (1) 事業内容

再生作業 (障害物除去 (草刈り、抜根等)、深耕、整地等) を行い、耕作放棄地の再生・利用に取り組む取組主体に対し交付金を交付

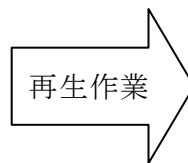
#### (2) 交付算定基準

10 a あたり国・県・市の交付金を合わせ 60 千円から 100 千円を交付  
(市の交付額は、15 千円から 25 千円)

### 3 事業費 750 千円 (耕作放棄地対策事業 2,785 千円の一部)



耕作放棄地



再生後

# (新規)村櫛漁港S字航路改良事業について

農林水産部農業水産課  
(農林水産部農業水産政策課)

## 1 目的

村櫛漁港施設内に位置するS字航路は、漁場と漁港を結ぶ重要な航路となっているが、潮の干満により滞砂が年々堆積し、船舶の航行に支障が生じる状態となっている。

一方、アサリ採貝漁業は浜名湖における漁業の中核であり、アサリ漁場の拡大や回復のための覆砂について、以前より漁業者から要望がなされているところである。

このようなことからS字航路の浚渫を行い、排出土砂をアサリ漁場の覆砂に活用することにより、船舶航行の安全確保や、アサリ漁場の改良を図る。

## 2 事業内容

- (1) 村櫛漁港施設であるS字航路の滞砂の浚渫
- (2) アサリ漁場改良のため、浚渫された土砂はアサリ漁場への覆砂として移設

## 3 事業費 30,000 千円 (財源: 県補助金 15,000 千円)

(漁港整備事業 54,838 千円の一部)



# 森林認証による森林整備に対する助成について

農林水産部森林課

## 1 目的

持続可能な森林管理を促進し、天竜材ブランド復権による林業振興を図るため、平成 21 年度から国際機関による森林認証（F S C）の取得を進めている。この森林認証を核とした森林整備を推進するため、間伐等の森林整備に対する助成について見直しを行う。

## 2 事業概要

- ・ 間伐等の森林整備の前に作成する施業計画策定に対する助成の廃止
- ・ 森林認証地域については補助率の加算
- ・ 森林認証未取得地域については補助率の引下げ

| 事業名             | 内容                   | 区分     | 補助率など                  |                         |
|-----------------|----------------------|--------|------------------------|-------------------------|
|                 |                      |        | 平成22年度                 | 平成21年度                  |
| 森林施業計画推進支援事業    | 森林整備のための施業計画作成に対する助成 |        | 廃止                     | 2分の1                    |
| 環境に配慮した森林管理推進事業 | 間伐等の森林整備に対する助成       | 認証取得林  | 3分の2                   | 2分の1                    |
|                 |                      | 認証未取得林 | 3分の1                   |                         |
| 間伐材流通促進助成事業     | 間伐材の搬出に対する助成         | 認証取得林  | 1m <sup>3</sup> 2,000円 | 1 m <sup>3</sup> 2,000円 |
|                 |                      | 認証未取得林 | 1m <sup>3</sup> 1,500円 |                         |

## 3 事業費（補助金） 87,000千円

（環境に配慮した森林管理推進事業 46,945 千円の一部 45,945 千円、  
間伐材流通促進助成事業 41,055 千円）



環境に配慮した管理をされた森林（イメージ）

# 天竜材の家百年住居る助成事業について

農林水産部森林課

## 1 目的

持続可能な森林管理を促進し、天竜材ブランド復権による林業振興を図るため、平成 21 年度から国際機関による森林認証（F S C）の取得を進めている。この森林認証を核として森林整備を行い、認証材の流通を促進するため、百年住居る助成事業について見直しを行う。

## 2 事業内容

**現行制度：**浜松市で生産・加工された一定の品質基準を満たす木材（地域材）を全体及び主要構造材の総使用量の 50%以上使用して、新築・増築された居住用住宅の建築面積 1 m<sup>2</sup>あたり 4 千円、一軒当たり上限 400 千円助成

**改正点：**認証材使用のインセンティブを創設

既存要件に加え、認証材を全体の 25%使用して建築された住宅について上限 200 千円加算し、助成額を一軒当たり最大 600 千円とする。

※インセンティブにおける、認証材割合の要件を毎年度見直すものとする。

## 3 事業費 68,000千円

- ・通常分 400 千円×155 棟
- ・インセンティブ 200 千円× 15 棟



木のぬくもりが感じられる地元材を使った住宅

# (新規) 地域材活用施設緊急整備助成事業について

農林水産部森林課

## 1 目的

治山治水への活動など、地域の偉人である金原明善の生家は、旧東海道活性化の拠点のひとつに位置付けられているものの、老朽化が進み、来訪者数も伸び悩んでいる。そこで地域材を活用して改修を行うとともに展示スペースの見直しなどを行い施設を一新する。

このような地域振興に資する公共性の高い施設の地域材を活用した改修に対して助成を行い、地域材利用の促進、地域材の需要拡大及びPRを図る。

## 2 事業概要

- (1) 事業箇所 東区安間町
- (2) 事業主体 (財) 金原治山治水財団
- (3) 事業内容 地域材を使用した金原明善生家の改修

3 事業費 補助金 20,550千円 (財源: 県 20,550千円)



金原明善生家改修後の外観 (イメージ)

# (新規) 木質バイオマス利用促進事業について

農林水産部森林課

## 1 目的

木材の需要や価格の低迷等の理由で、住宅用材に向かない間伐材などは売却しても輸送コストまで賄うことができないため、有効利用されずに森林に放置される傾向にある。

一方、地球温暖化問題が取りざたされる中、燃油代の上昇傾向もあり、低燃費かつ生物由来で再生可能なバイオマスエネルギーへの関心・需要は非常に高まっている。

このようなことから、木材の需要拡大による森林整備の促進、木質バイオマス燃料の需要拡大による浜松市バイオマスタウン構想の推進と地球温暖化抑止に資するため、木質ペレット製造施設を整備する。

## 2 事業概要

(1) 実施箇所 森林組合木材加工場内

(2) 整備内容 木質ペレット製造施設

- ・オガ粉製造機
- ・真空乾燥機
- ・ペレット製造機

3 事業費 57,000千円

(財源：グリーンニューディール基金繰入金 57,000千円)



木質ペレットとは、再生可能で地球環境にダメージの少ない木材を原料にした新しい燃料エネルギー  
使用用途の少ない間伐材や端材木材を  
破碎⇒乾燥⇒圧縮  
することにより小粒状の固形燃料を製造する  
再生可能で CO2 削減や原油価格に影響されない燃料  
として近年注目を集めている



# (新規) 地域公共交通連携計画実施事業について

都市計画部交通政策課

## 1 目的

持続可能な公共交通を構築するため、平成 21 年度に策定した地域公共交通総合連携計画に基づき、国の支援を受けながら、本市が維持しているバス路線の改善・効率化や、公共交通の活性化を図る。

## 2 事業内容

- (1) 水窪バス実証運行（水窪 池島線・白倉線の改善）
  - ・へき地患者輸送バスを統合（一部を除く）
  - ・水窪商店街、J R 水窪駅へのアクセス改善
- (2) 佐久間バス実証運行（佐久間 福祉バスの改善）
  - ・へき地患者輸送バスを統合
  - ・有料化
  - ・鉄道とバスとの乗り換えを効率化
- (3) 細江バス実証運行（細江 新規バス運行）
  - ・公共交通空白地域（伊目、老ヶ谷等）における実証運行
- (4) 天竜落合バス待合所整備
  - ・地域医療の拠点である阿多古診療所付近に待合所を整備
- (5) 利用促進啓発
  - ・転入者、小学校児童、保護者に対する意識転換策の推進
  - ・カーフリーデーの推進
  - ・大型商業施設や地域の協力によるパーク&ライド、サイクル&ライドの推進

## 3 事業費 38,454千円（浜松 21 世紀都市交通会議への負担金）



# 交通安全対策事業について

都市計画部交通政策課

## 1 目的

浜松市における人身交通事故件数は、平成20年が9,176件であり、8年連続して9,000件を上回っている。全国18の政令指定都市における、人口あたりの人身事故発生件数及び交通事故死者数は、高い値で推移している。

こうしたことから、交通事故の削減に向けて全市的に取り組むとともに、市民一人ひとりの交通安全意識の向上を図ることにより、安心して安全な暮らしができる都市を目指す。

## 2 事業内容

交通事故削減アクションプログラムに基づき、次の事業に取り組む。

### (1) 事故多発交差点調査

前年の事故多発交差点をピックアップし、警察・地域・行政等の関係機関で協力して交差点事故を削減する対策を実施する。

### (2) 交通安全啓発

市民の交通安全に対する意識向上を図り、交通事故を防止していく。

- ・毎月10日「市民交通安全の日」の周知活動
- ・各季の交通安全運動を中心とした啓発活動
- ・浜松市交通事故防止対策会議への負担金
- ・静岡県交通安全指導員設置事業への負担金
- ・(新規)静岡県警察署職員受入への負担金

## 3 事業費 118,309千円

## 4 他の部局との連携

### (1) 土木部

- ・通学路への歩道設置等、交通安全施設の整備

### (2) 学校教育部

- ・通学路安全対策会議の開催
- ・交通安全教育推進モデル小学校事業の開催 ほか



# 浜松城公園整備について

公園緑地部公園課

## 1 目的

浜松城公園は、浜松城など歴史的建造物や美術館、文芸館などの教養施設、大芝生広場を主体とした総合公園であり、市民の教養、レクリエーションの場として、日常的に広く利用されている。

セントラルパークとして、また災害時の防災機能を担う広域防災拠点として、今後も引き続き、公園の整備・充実を図る。

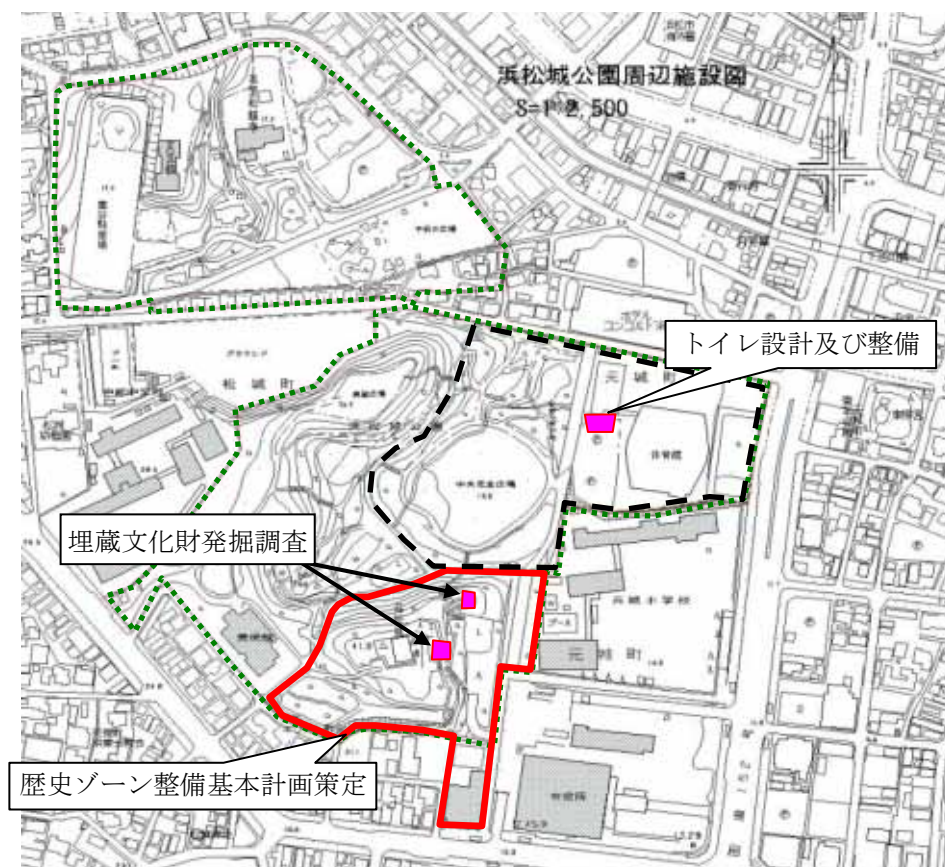
## 2 事業内容

- (1) 歴史ゾーン整備基本計画策定
- (2) トイレ設計及び整備
- (3) 埋蔵文化財発掘調査

## 3 事業費 45,400千円（国費 15,000千円）

公園整備事業・補助事業 30,000千円（409,000千円の一部）

(新規)浜松城公園整備事業 15,400千円



# 安全・安心な歩行空間整備事業について

土木部道路課

## 1 目的

全ての歩行者が安全で安心して通行できる歩行空間の整備を促進するため、通学路の歩道整備や「あんしん歩行エリア」の事故抑止対策を計画的に推進する。

## 2 事業内容

### (1) 通学路の整備事業

事業費 420,000千円(財源:国庫231,000千円 市債29,900千円)

現在、本市の通学路延長は1,063kmあり、この内、歩道が設置されている延長は261kmである。子供達が楽しく安全で安心して学校や幼稚園に通えるように歩道設置など通学路の環境整備に取り組む。

具体的には、通学路における歩道設置、交通事故が多発している道路、その他緊急に交通安全を確保すべき道路について、総合的な計画のもとに国庫補助で実施する。

交通安全施設等整備・修繕事業 国庫補助事業(市道)  
(市)布橋住吉1号線ほか8路線(L=1,420m)

### (2) あんしん歩行エリアにおける安全・安心な歩行空間整備事業

事業費 32,200千円

市街地における歩行者及び自転車利用者の交通事故発生率が高い地区を「あんしん歩行エリア」として、歩行者・自転車に係る事故抑止対策を実施する。

交通安全施設等整備・修繕事業 市道単独事業

対象地区:城北地区(中区)ほか5地区(A=7.61km<sup>2</sup>)

事業内容:路側帯のカラー化、照明灯設置

# スマートインターチェンジ調査事業について

土木部道路課

## 1 目的

現在建設中である新東名（第二東名）高速道路（仮称）「浜松浜北SA」へのスマートIC設置は、高速道路の有効利用、地域住民の利便性の向上、周辺地域との交流促進など浜松市の活性化に大きく寄与すると期待される。

## 2 事業計画

平成20年度から実施してきた勉強会を終了して、平成21年11月に関係機関（国、県、中日本高速道路㈱、県公安委員会）による地区協議会を設立した。

平成21年度は、社会便益・採算性の検証、管理・運営方法等について協議が行われ、中日本高速道路㈱等を実施計画書を作成・提出した。

平成22年度は、連結許可申請とともに、スマートICの詳細設計、案内誘導計画に着手する。

## 3 事業費 5,000千円（道路企画調査事業27,000千円の一部）



# (新規) 鉄道駅耐震補強工事助成事業 (補助金) について

土木部道路課

## 1 目的

鉄道駅耐震補強事業に要する経費の一部を、国・地方公共団体が協調して補助することにより、列車の安全運行及び鉄道駅利用者の安全の向上を図ると共に発災時における鉄道駅の緊急応急活動拠点機能を確保することを目的とする。

補助対象となる駅 耐震化が未実施の乗降客数が1日1万人以上の駅

## 2 事業内容

公共性の高い基幹交通施設である遠州鉄道新浜松駅の耐震補強の実施を助成する。

- (1) 事業主体 社団法人鉄道建築協会
- (2) 対象となる駅 新浜松駅 (遠州鉄道鉄道線)
- (3) 事業期間 平成22年度

## 3 事業費 100,000千円 (補助金)

全体事業費 約300,000千円 (鉄道事業者負担1/3、国1/3、市1/3)



新浜松駅 (昭和60年完成)